

地域連携だより



第17回善通寺市在宅医療・介護連携研修会を開催しました

令和7年8月6日(水)午後、市役所にて第17回目となる研修会を開催し、医療関係10事業所、介護関係17事業所、計53名の参加がありました。

今回はさんあいクリニック 心療内科医師 三谷 理恵先生を講師にお迎えし、「高齢者によくみられる精神症状の見立てと対応～事例をもとに考えよう～」をテーマにグループでの事例検討をとおして学びを深めました。

1事例目は、「妄想」があるケースについて、どのような病名と見立てるか、どのように対応するか多職種で意見交換を行った後、三谷先生による解説をお聞きしました。

妄想には一次妄想と二次妄想の二種類があり、一次妄想は、現実では考えられないような突飛な妄想で主に統合失調症などの疾患で生じやすいこと、また二次妄想は、本人の体験や経験に基づくどこか現実とリンクした妄想で主に認知症やうつ病、PTSDなどの疾患で生じやすいこと、そしてこれらの妄想を区別することで、その方の患っている病名をある程度絞り込むことができることを教えていただきました。病名を絞り込むことで、支援に必要なアプローチがお薬なのか、生活支援なのか、家族関係の調整なのかを考えることができるというお話でした。

特に認知症にみられることの多い二次妄想については、心理的な背景にアプローチすることで改善の可能性があること、強いストレスや不安、孤独感や孤立感、自己肯定感の低さ、過去の経験(トラウマ)、環境の変化、人間関係のトラブル、睡眠不足や体の病気などが要因となり得ることを教わり、家族や関係者の対応について具体的に助言をいただきました。

参加者からは「先生の解説がわかりやすく、声のかけ方など具体的な助言が得られ現場で即活用できる。」「異なる職種の見方、捉え方を知る機会となった。」などの意見が聞かれました。あっという間の2時間で、2事例目の「うつ」や「発達障害」についてももっと詳しく聞きたいなど続編を期待する声もありました。

グループワークの様子



三谷先生の解説



第18回善通寺市在宅医療・介護連携研修会を開催しました

令和7年12月11日（木）午後、市役所にて第18回目の研修会を開催しました。今回は市民と医療・介護関係者の合同研修として開催し、計89名の参加がありました。

ぜんつうじの森クリニック院長 森 照茂先生を講師にお迎えし、「知って得する！耳鼻いんこう科が担う認知症予防のおはなし」をテーマに、ヒアリングフレイルと認知症、嚥下障害と認知症について最新情報を教えていただきました。

参加者からは「難聴が認知症の危険因子であることを初めて知った。」「耳の聞こえ、嚥下障害ともにおかしいと思ったら耳鼻科を受診しようと思う。」など、大変勉強になったという声がたくさん聞かれました。また、「診療に真摯に取り組んでおられることがわかり今後の生活が安心です。」との感想もありましたが、医学的なお話も先生が楽しくわかりやすくお話くださり、和やかな研修となりました。

森先生のお話



森先生のお話

- ・「ヒアリングフレイル」とは聴覚機能の低下が心身の活力を弱めてしまう状態のこと。
- ・認知症の予防可能な12因子のうち「難聴」が8%あり、**難聴の予防と治療が認知症予防の最大のカギ**となる。**補聴器装用率アップで認知症リスクが低下することがわかっている。**
- ・高齢者になると100%難聴の自覚症状あり。しかし、**難聴は病気という認識不足**から医師に相談している人はたった42%、そのうち耳鼻科医に相談している人は1/3にとどまる。医師から適切なアドバイスをされた難聴者はほぼ100%補聴器装用に至るが、高齢者の86%は認知症のリスクである難聴を放置している現状がある。
- ・聞こえが悪くなると認知機能低下につながることで、補聴器装用により認知機能低下を予防できることについて普及啓発を行い、聴力検査への関心を高めたり、適切な耳鼻科受診につなげることが重要。
- ・嚥下障害（飲み込みにくさ）は食欲低下、誤嚥性肺炎の原因となる。**放置せず耳鼻科受診すること。**

善通寺市内の医療・介護・認知症に関する情報をひとまとめた冊子です。

令和8年3月末、改訂版を発行予定！ぜひ、ご活用ください。



善通寺市地域包括支援センター（高齢者課内）

TEL (0877)63-6364 FAX (0877)63-3778

Mail houkatsu@city.zentsuji.kagawa.jp